32 御料馬「友鶴（ともづる）号」置物

大熊氏廣　一点

明治二十七年（一八九四）
ブロンズ・鋳造
総一七・五×三六・〇×四四・五

福島県三春産で明治天皇の御料馬であった友鶴号が右前肢を上げて尾を翻し、まるでヨーロッパの馬像のような勇ましい姿で表されている。しかし、在来馬の特徴を脚色することなくとらえた本作は、大きな頭、太い首、こんもりとした鬣によって、颯爽というよりは親しみやすく温和な性格を想起させる表現となっている。馬体は銅製とみられ、かなり剥げ落ちているが全体に鍍銀がほどこされている。馬の下にはモニュメント（記念像）を思わせる基壇部があり、正面には「御馬友鶴」、裏面には「奉賀大婚二十五年盛典」と銘文が陽鋳される。馬の胴下部には「氏廣謹作」と刻銘があり、作者が大熊氏廣であることを示す。本作は明治二十七年（一八九四）の明治天皇大婚二十五年の折の献上品で、基壇部の底裏には、賞勲局総裁であった侯爵西園寺公望以下二十名の高等官の名前が献上者として刻まれている。『明治二七年大婚二五年御祝典録』（宮内公文書館所蔵）によれば、この祝典の折、内閣高等官一同より「銀製馬　一対」の献納願が出されており、作者の記載はないが本作はそのうちの一点と推測される。

作者の大熊氏廣（一八五六～一九三四）は足立郡中居村（現在の埼玉県鳩ヶ谷市）の出身で、工部美術学校彫刻学科のラグーザのもとで彫塑を学んだ。その後、フランスとイタリアに留学して、現地彫刻界の大家のもとで本格的な西洋彫刻の技法を身に付け、帰国後に靖國神社の「大村益次郎像」や有栖川宮記念公園の「有栖川宮熾仁親王像」など、明治期の先駆的な洋風彫塑の代表作を生み出した。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

駒競べ（こまくらべ）——馬の晴れ姿
三の丸尚蔵館展覧会図録No. 73

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan